

日本語教育通信

<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/index.html>

編集 独立行政法人 国際交流基金

第66号

2010年4月～2010年9月



JAPAN FOUNDATION

目次



日本語教育ニュース 2010年6月

WEB版
「エリンが挑戦！ にほんご
がオープンしました！」

2010年5月

「JF 日本語教育スタンダード 2010」
発表



授業のヒント 2010年4月

歌を使った中・上級の教室活動



日本語の教え方 イロハ 2010年7月

第9回
日本事情や日本文化の教え方
—日本語の授業の中で—



文法を楽しく 2010年6月、9月

「のだ／んだ」(1)(2)



本ばこ 2010年4月～2010年9月

新刊教材・図書紹介

Contents



Nihongo Kyoiku News Jun, 2010

A fun website for "Erin's Challenge! I Can Speak Japanese." opened!

May, 2010

"JF Standard for Japanese-Language Education 2010" has been released



Ideas for Japanese-Language Classrooms Apr, 2010

Classroom Activities with Japanese Songs for Intermediate & Advanced Levels



The First Step Teaching Japanese Jul, 2010

Teaching Japanese culture and lifestyle in a Japanese classroom



Enjoy Japanese Grammar June&Sept, 2010

noda & nda (1)(2)



Bookshelf Apr-Sept, 2010

Introduction of New Titles

『日本語教育通信』

編集：独立行政法人 国際交流基金
〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-36
国際交流基金日本語国際センター
TEL: +81-48-834-1183 FAX: +81-48-831-7846
E-Mail: jfnckt@jpf.go.jp
編集協力：株式会社アーバン・コネクションズ

編集部から

「日本語教育通信」は2009年5月から、印刷物としての発行を休止し、webサイトのみでの提供となりました。毎月、いずれかのコーナーの記事が更新されます。
2010年4月から2010年9月までの記事をまとめて第66号としました。印刷して保存するときにこの表紙をお使いください。



日本語教育ニュース

WEB版「エリンが挑戦！にほんごできます。」がオープンしました！
<http://erin.ne.jp/>

日本語国際センター 専任講師 赤澤 幸
にほんごこくさい せんじんこうし あが ちゆき



ドラマやCMで活躍中の豊田エリーさん・倉科カナさんが出演している、日本語学習のための映像教材「エリンが挑戦！にほんごできます。」(以下、「エリン」)のWEB版が、2010年3月31日にオープンしました。WEB版「エリン」は、日本や日本語に興味のある世界中の人たちが、より気軽に楽しく、現代の日本事情・日本文化や日本語について学べるサイトです。

WEB版「エリン」の特徴やおすすめのコンテンツを、紹介します！

■「エリン」の特徴

「エリン」の特徴は、「日本語学習」と「文化理解」を組み合わせた日本語学習教材であることです¹。「エリン」の「日本語学習」は、日本語の知識を増やすのではなく、「日本語でできること」を増やすことを目標にしています。また、「エリン」の中のたくさんの動画や音声で日本語を学習することによって、異文化や多文化についての視野を広げることも目標としています。

■「エリン」の構成とコンテンツ

「エリン」は全部で25課あります。それぞれの課には「基本スキット」、「応用スキット」、「大切な表現」、「ことばをふやそう」、「これは何?」、「見てみよう」、「やってみよう」の7つのコーナーがあります。これらのコーナーには、「日本語学習」をサポートするコーナー、「文化理解」をサポートするコーナー、そして「日本語学習」と「文化理解」をつなぐコーナーという役割があります(図1)²。

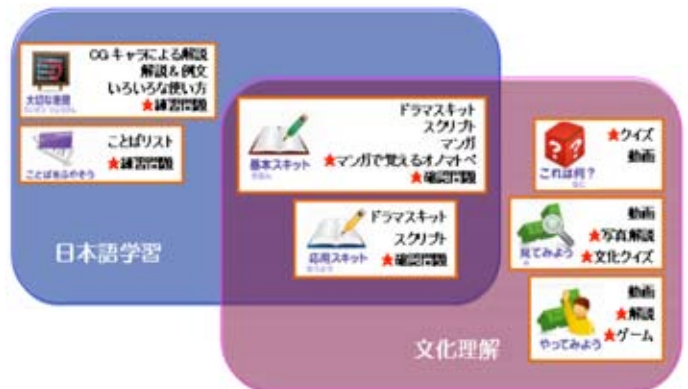


図1 WEB版「エリン」の構成

「日本語学習」と「文化理解」をつなぐコーナー：「基本スキット」「応用スキット」

「基本スキット」と「応用スキット」では、ドラマ風のスキットで、実際に使われている“生”の日本語が学習できるとともに、現代の日本文化や日本事情に触れることができます。

スキットの字幕やスクリプトは、さまざまな学習段階の学習者にとって使いやすいように、漢字かな混じり・かな・ローマ字・英語の4種類を選んで表示することができます。「基本スキット」をマンガにしたページでは、スクリプトと同じように、吹き出しの中のセリフを4種類の表示に切り替えたり、セリフをクリックすると音声がかたりする、便利な機能が付いています(図2)。



図2 基本スキット>マンガ

WEB版のために新たに作成したコンテンツは、「マンガで覚えるオノマトペ」、スキットの内容に関する「確認問題」です。「マンガで覚えるオノマトペ」では、スキットのマンガに出てくる「ガタガタ」「キョロキョロ」などの擬声語・擬態語の

使い方と例文や、その場面を表現した動画を見ることができます(図3)。スキットの内容に関する「確認問題」は、全部で250問あります。



図3 基本スキット>マンガで覚えるオノマトペ

「日本語学習」をサポートするコーナー：「大切な表現」「ことばをふやそう」



図4 大切な表現>動画の再生

「大切な表現」のコーナーでは、CGキャラクターによる文法解説のアニメーション(図4)や「解説&例文」のページで、日本語の文法・文型のルールや使い方について勉強することができます。「エリン」の「日本語学習」は、日本語の文法・文型を正確に覚えて言えるようになることが目的ではなく、「日本語でできること」を増やすことを目的としていますので、スキットに出てくる文法・文型が実際の生活場面でどのように使われているか、「いろいろな使い方」のページで動画を見することもできます。学習した文法・文型を定着させるためには、音声やイラスト・



図5 大切な表現>練習問題

写真を使った「練習問題」のページがおすすめです(図5)。全25課1,519問の練習問題は、WEB版のために開発されたオリジナルコンテンツです。

語彙をたくさん覚えたい方は、「ことばをふやそう」のコーナーで、各課に関連する場面やトピックの語彙を、豊富なイラストと音声で勉強することができます。

「文化理解」をサポートするコーナー：「これは何?」「見てみよう」「やってみよう」

「これは何?」のコーナーは、日本の普段の生活では当たり前に使われているものですが、外国の人には何かよくわからない不思議なものについて、クイズと使い方解説の動画で学ぶことができます。



図6 見てみよう>文化クイズ

「見てみよう」のコーナーでは、25課分の場面やトピックに関係する現代の日本事情について、動画や633枚もの解説付きの写真で勉強することができます。日本文化について知識を深めることのできる「文化クイズ」は、WEB版のために独自に開発したおすすめコンテンツです(図6)。25のトピックのクイズに、ぜひ挑戦してみてください。クイズに20問連続して正解すると「黒帯」、30問連続正解すると「師範」の認定を受けることができます。

「やってみよう」のコーナーは、「書道」、「生け花」、「そろばん」といった日本の伝統的な文化や、「携帯メール」、「プリントシール」のような現代の若者文化を、外国人が実際に体験してみる動画が見られるコーナーです。このコーナーには、WEB版用に新たに開発した「ゲーム」のページがあります。「バーチャル生け花ゲーム」、「エリンのプリントスタジオゲーム」、「江ノ電すごろくゲーム」(図7)など、日本文化や日本の生活が疑似体験できるゲームが満載です。



図7 やってみよう>ゲーム



ユーザー登録すれば使える、便利で楽しい機能：「学習の記録」「アバター」「にほんごクエスト」

WEB版「エリン」は、ユーザー登録をしなくてもすべてのコンテンツを見ることができますが、ユーザー登録をした人だけが使える、便利で楽しい機能もあります。

「学習の記録」は、いつ、何を学習したか、自動的に記録する機能です。ログインしてからWEB版「エリン」を使って学習すると、学習したページがすべて「学習の記録」に記録されますので、この記録を確認しながら、自立的に日本語の学習を進めることができます。

「アバター」は、WEB版「エリン」の中だけの自分のキャラクターを作ることができる機能です(図8)。顔のパーツや髪型を選んで、ぜひあなたにそっくりなアバターを作ってみてください。選べる洋服は、ユーザー登録したばかりの時は限られていますが、サイトで勉強すればほどポイントが増えて、アイテムを増やすことができます。



図8 「アバター」



図9 「にほんごクエスト」

「にほんごクエスト」は、WEB版「エリン」で勉強した日本語を使って日本語のコミュニケーションに挑戦することができる、サイト上の仮想の街です(図9)。サイトで勉強して「日本語でできること」が増えれば増えるほど、街で出会う人たちといろいろな日本語のコミュニケーションができるようになります。また、学習した課が増えていくと、「ファッションタウン」や「温泉」など、行ける場所も広がっていきます。

WEB版「エリン」オープン後の利用状況

2010年3月31日のサイトオープンから6月15日までの約2ヵ月半の間に、WEB版「エリン」には140の国・地域から39,907人のユーザー³が訪れました。セッション⁴の多い国・地域は、順に、日本(16.7%)、中国(13.5%)、アメリカ(9.6%)、韓国(6.9%)、オーストラリア(6.4%)です(図10)。国際交流基金が実施している「海外日本語教育機関調査」の2006年調査によると、海外で日本語教育が行われているのは133の国・地域ですから、わずかに2ヵ月半の間に、それを上回る広範囲の国・地域の人にアクセスしていただけたことがわかります。サイトへのセッションは81,451件で、ページビュー⁵は679,168件でした。

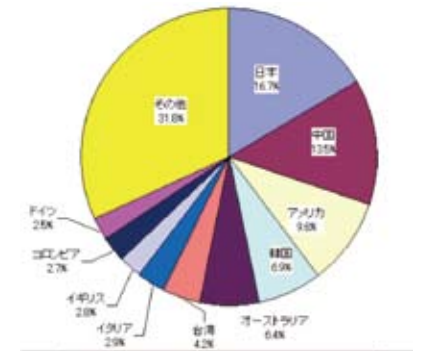


図10 セッションの国・地域別割合

WEB版「エリン」の今後

現在、WEB版「エリン」は日本語版と英語版のみの公開ですが、今後、他の言語についても公開していこうと考えています。これからも、日本や日本語に興味のある世界中の人たちにとって、より使いやすく楽しいサイトにしていきますので、ぜひたくさんさんのページをご覧になって感想やご意見を送ってください！

1 くわしくは、『日本語教育通信』第59号 日本語教育ニュース「『エリンが挑戦！にほんごできます。』-この教材で伝えたい考え方」(http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/dw_pdfs/nk59_01-03.pdf)をごらんください。

2 ★の印は、WEB版だけのオリジナルコンテンツを表します。

3 これは「ユニークユーザー」の数です。「ユニークユーザー」とは、1度以上サイトを訪れたことのある人を表します。同じユーザーが何度訪れてもユニークユーザーの数は1と数えます。

4 「セッション」とは、ユーザーがサイトを訪れてからほかのサイトへ移動するまでの一連のアクセスのことです。サイトに入ってから別のサイトへ移動するまでに、サイト内のページをいろいろ見たとしても「1セッション」と数えます。

5 「ページビュー」とは、サイト内のページが表示された回数のことです。あるユーザーがサイトを訪れていくつかのページを見た時、それぞれのページごとに「1ページビュー」と数えます。



Launch of a Website for “Erin’s Challenge! I Can Speak Japanese.” <http://erin.ne.jp/>

Miyuki Akazawa,
Lecturer, Japanese Language Institute, Urawa



A website for “Erin’s Challenge! I Can Speak Japanese,” a series of Japanese-language DVD teaching materials featuring up-and-coming actors and stars of TV dramas and commercials such as Ellie Toyota and Kana Kurashina, was launched on March 31, 2010. The website is designed to provide people around the world interested in Japan and Japanese language with opportunities to learn about contemporary Japan and its culture, and to study Japanese language in a fun and easy way.

Here we would like to introduce the features of this website and its recommended contents.

■ Features

The website contains Japanese-language teaching materials in which language study and cultural understanding are closely related¹. The objective of Japanese-language learning through this website is not simply to increase learners’ command of the Japanese language, but to enhance the scope of things they can do in Japanese. Furthermore, the website aims to promote understanding of a different culture and multiculturalism through Japanese-language learning via numerous visual and audio materials.

■ Organization and contents

This website consists of 25 lessons. Each lesson is composed of seven sections: “Basic skit,” “Advanced skit,” “Key phrases,” “Develop vocabulary,” “What’s this?,” “Let’s see,” and “Let’s try.” These sections serve the following purposes: to support Japanese-language learning and cultural understanding, and to connect Japanese-language learning with cultural understanding (Figure 1²).



Figure 1 Organization of the website for “Erin’s Challenge! I Can Speak Japanese.”

Sections that connect Japanese-language learning with cultural understanding: “Basic skit” and “Advanced skit”

The “Basic skit” and “Advanced skit” sections are structured in a drama format and expose Japanese-language learners to contemporary Japanese culture and lifestyle, while enhancing their command of natural Japanese language as it is actually used.

In order to make the subtitles and scripts of the skits accessible and user-friendly to learners of various levels, the website offers an option to display them in three types of writing systems—Chinese characters mixed with Japanese phonetic characters, Japanese phonetic characters only, and Roman letters—and in English. The page, in which the “Basic skit” is displayed in a manga format, features various convenient functions (Figure 2). For instance, the script in the word balloons can be switched between the four types of display. Also, by clicking on each word balloon, learners can listen to an audio recording of the line.



Figure 2 Basic skit > Manga

The new content created exclusively for the website includes the pages “Learn onomatopoeia with manga” and “Review

questions” on the skit’s content. In the “Learn onomatopoeia with manga” page, learners can peruse explanations and examples of the use of various onomatopoeic expressions, such as *gatagata*, *kyorokyoro*, etc., that appear in the manga, and view movies of the actual sounds or actions expressed through the onomatopoeic expressions (Figure 3). The “Review questions” pages contain a total of 250 questions on the skit’s content.



Figure 3 Basic skit > Learn onomatopoeia with manga

Sections that support Japanese-language learning: “Key phrases” and “Develop vocabulary”



Figure 4 Key phrases > Play movie

The “Key phrases” section contains grammar explanation animated films that feature CG characters (Figure 4) and a page “Explanation & example sentences,” which provide learners with an opportunity to enhance their command of Japanese-language grammar and syntax rules and their use. Since the purpose of Japanese-language learning via this website is not to memorize and exactly repeat Japanese-language grammar and syntax structures, but to increase the number of things learners can do in Japanese, the “Key phrases” section contains a page “Key phrases in different situations,” which features movies that demonstrate the use in real everyday situations of the grammar and syntax structures presented in the skits. The “Exercise” page

(Figure 5), which contains audio materials, illustrations and photos, is particularly useful for acquiring a lasting command of the newly-learned grammar and syntax structures. The total of 1,519 questions in the 25 lessons are original content developed exclusively for the website.

The “Develop vocabulary” section provides learners who wish to expand their vocabulary with rich content composed of illustrations and audio materials that help them learn new words for situations and topics related to each lesson.



Figure 5 Key phrases > Exercise

Sections that support cultural understanding: “What’s this?,” “Let’s see,” and “Let’s try”



Figure 6 Let’s see > Culture quiz

The “What’s this?” section teaches, through quizzes and movies with explanations of actual applications, about things that Japanese take for granted and use in their everyday lives, but that are strange and difficult-to-understand for foreigners.

The “Let’s see” section features movies and a total of 633 photos accompanied by explanations. Japanese-language learners can use them to study about contemporary Japan based on the situations and topics discussed in the 25 lessons. The “Culture quiz” is original content developed exclusively for the website. It is a must-see for those who wish to enhance their understanding of Japanese culture.

We recommend learners to test their knowledge in the quizzes on 25 topics. Twenty consecutive correct answers will bring them a “black belt” and 30 consecutive correct answers will promote them to “grand masters” (Figure 6).

In the “Let’s try” section, Japanese-language learners can view movies featuring foreigners who experience various forms of traditional Japanese culture, such as calligraphy, ikebana (flower arrangement), and abacus, and young people’s modern



Figure 7 Let’s try > Games

cultural phenomena, such as cell phone e-mail and photo stickers. This section contains game pages, which were newly developed for the website. The “Virtual Flower Arrangement Game,” “Erin’s Print Studio Game,” “Enoden Sugoroku Game” (Figure 7), and a variety of other games provide learners with rich opportunities to experience Japanese culture and lifestyle.

**Useful and fun functions for registered users:
“Record of your learning,” “Avatar,” “Nihongo Quest” game**

Learners do not need to register in order to view the content of this website. However, there are some helpful and fun functions of the website that are available only to registered users.

The “Record of your learning” is a function that automatically keeps a record of when and what you learn. Once you log in, each page that you access to study is registered in the “Record of your learning,” so you can independently proceed with your Japanese-language learning while checking the record of viewed pages.

“Avatar” is a function that allows users to create their own images that can be used only in this website (Figure 8). We invite learners to make their look-alike avatars



Figure 8 “Avatar”

by choosing from a rich variety of facial features, hair styles, etc. At the time of registration, the range of available outfits and other items from which users can choose is limited, but the more users learn, the more points they get. Using these points, users can increase their avatar’s items.



Figure 9 Game “Nihongo Quest”

The “Nihongo Quest” game is a virtual town, where users can have conversations with people using the Japanese language they learn through this site (Figure 9). The more learners study in the site and increase the number of things they can do in Japanese, the better they can communicate with the people they meet in the virtual town. Also, as the number of lessons they complete grows, users gain access to more places to visit, such as “Fashion Town” and “Hot Spring Spa.”

Utilization status of the website for “Erin’s Challenge! I Can Speak Japanese.” after its launch

In the approximately two and half month period from the launch of the website for “Erin’s Challenge! I Can Speak Japanese.” on March 31 to June 15, 2010, it was visited by 39,907 users³ from 140 countries and regions. In the ranking of countries and regions by number of sessions⁴ Japan comes first (16.7%), followed by China (13.5%), the United States (9.6%), the Republic of Korea (6.9%), and Australia (6.4%) (Figure 10). According to the “2006 Overseas Japanese-Language Education Organization Survey” conducted by the Japan Foundation, overseas Japanese-language education is provided in 133 countries and regions around the world, so the above data demonstrates that in the relatively short span of just one month, people from a wide range of countries and regions have accessed the site. The number of sessions to the site was 81,451, and the number of page views⁵ - 679,168.

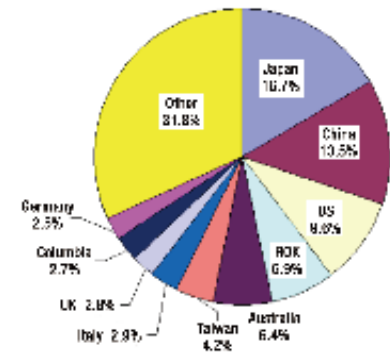


Figure 10 Ratio of sessions by country/region

Future perspectives

At the moment, the website for “Erin’s Challenge! I Can Speak Japanese.” is available only in Japanese and English, but we are considering releasing versions of the website in other languages in the future. Going forward, we will continue to develop this website in order to make it more user-friendly and enjoyable for all people around the world who are interested in Japan and Japanese language, so please visit the various pages of the website and send us your impressions and opinions.

1 For details, refer to Nihongo Kyoiku Tsushin No. 59, Nihongo Kyoiku News “Concept behind the Teaching Materials ‘Erin’s Challenge! I Can Speak Japanese.’” (http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/dw_pdfs/nk59_01-03.pdf)
 2 The ★ mark indicates original content available only on the website.
 3 This is the number of unique users. The term “unique user” refers to users who visit a certain website more than once. Regardless of the number of times a user visits that website, that user is counted as a single “unique user.”
 4 The term “session” refers to the information exchange from the moment a user accesses a certain site to the moment the user moves to a different site. Even if the user browses multiple pages within the same site, the period of time spent on all pages is still counted as a single session.
 5 The term “page view” refers to a request to load a single page of an Internet site. When a user visits a site and views multiple pages, each instance of the user loading a page is counted as a single page view.



日本語教育ニュース

にほんごきょういく

【第14回】「JF日本語教育スタンダード2010」発表

だい じゅうよんかい にほんごきょういく ぱっぴょう

国際交流基金 事業化開発チーム
こくさいこうりゅうきん じぎょうか かいぱつちーム

2010年3月、国際交流基金はJF日本語教育スタンダードに関する新しいウェブサイトをオープンしました。

JF日本語教育スタンダード (<http://jfstandard.jp>)

にほんごきょういく

「JF日本語教育スタンダードとは何か」についての説明を見ることができます。

にほんごきょういく

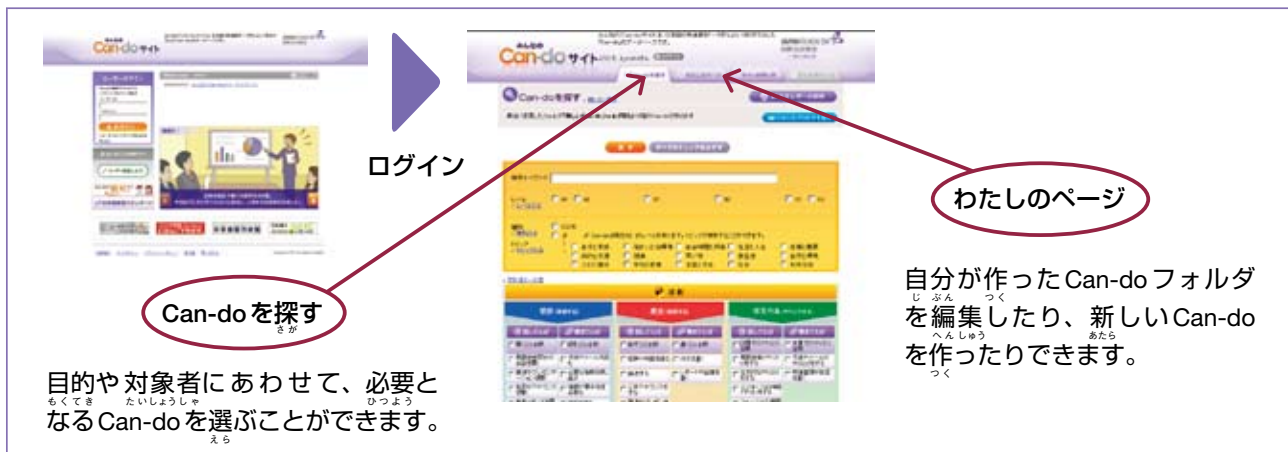
なに せつめい み



みんなの「Can-do」サイト (<http://jfstandard.jp/cando>)

みんなの「Can-do」サイトは、日本語で何がどれだけできるかを「～ができる」という文で示した「Can-do」のデータベースです。コースデザイン、授業設計、教材開発など、Can-doを使った実践をサポートします。ユーザー登録が必要ですが、「みんなの教材サイト」(<http://minnanokyozaikai.jp/>) のユーザーIDとパスワードでもログインできます。

きょうざい



Can-doを探す

ログイン

わたしのページ

自分が作ったCan-doフォルダを編集したり、新しいCan-doを作ったりできます。

目的や対象者にあわせて、必要となるCan-doを選ぶことができます。

新しいウェブサイトの内容をご紹介します。

Q1 「JF日本語教育スタンダード」(以下、「JFスタンダード」)とは何ですか。

A1 日本語の教え方、学び方、そして、学習成果の評価のし方を考えるためのツールです。

Q2 「JFスタンダード」の目的は何ですか。

A2 「相互理解のための日本語」の実現を目指し、その実践的なモデルを示すことです。

Q3 「JFスタンダード2010」とは何ですか。

A3 2010年3月までの開発成果をまとめたものです。「相互理解のための日本語」実現のためには、その言語を使って何がどのようになれるかという能力(課題遂行の能力)と、さまざまな文化に触れることで、視野を広げ他者の文化を理解し尊重する能力(異文化理解の能力)が必要だと考えています。「JFスタンダード2010」では、まずは、課題遂行の能力に重点を置きました。

Q4 「JFスタンダード2010」の資料は、どこで手に入りますか。

A4 「JF日本語教育スタンダード」のウェブサイトから、目的に応じて次の2つの資料がダウンロードできます。

- ①概要を知りたい ⇒ 『JF日本語教育スタンダード2010』
- ②JFスタンダードを使ってみたい ⇒ 『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』

Q5 「JFスタンダード2010」の具体的な内容は何ですか。

A5 課題遂行の能力を育てるために必要な4つのポイント、「JFスタンダードの木」「6つのレベル」「Can-do」「ポートフォリオ」を示しました。

「JFスタンダードの木」とは、言語活動と言語能力の関係を整理し、一本の木で表現したものです。日本語を使ってどんなことができるのか、したいのか、そのために必要な言語能力(語彙、文法、社会言語能力など)は何かを考えるのに役立ちます。

日本語を使ってできることをレベルで示したものが、「6つのレベル」です。6つのレベルは、基礎段階(A1、A2)、自立段階(B1、B2)、熟達段階(C1、C2)で、ヨーロッパ共通参照枠組み(CEFR)に準じています。

「Can-do」とは、日本語で「～ができる」という形式で示した文です。どのような文法を知っているか、単語や漢字をいくつ知っているかというのではなく、それらを使って何ができるのかという点から日本語学習を考えるのに役立ちます。

「Can-do」のデータベースであるみんなの「Can-do」サイトでは、言語活動別やレベル別にいろいろな「Can-do」を検索することができます。

「ポートフォリオ」は、学習者ひとりひとりの学習過程を記録し、保存するものです。学習過程を記録し、振り返ることで学習成果の評価のツールとして使うことができます。

「JFスタンダード2010」は、コースデザイン、授業設計、教材開発など、Can-doを使った実践をサポートします。



授業のヒント

じゆ ぎょう

テーマ

歌を使った中・上級の教室活動

うた つか ちゆう じょう きぎゅう きょうしつ かつ どう

目的 もくてき
歌を通してより豊かな日本語の力を養い、同時に日本の文化・社会について学ぶ
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
中級、上級
クラスの人数 にんずう
何人でも
準備するもの じゅんび
歌、歌詞、画像・動画、歌詞を朗読したもの

『日本語教育通信』第33号の「授業のヒント」で、「日本語で歌いましょう」というテーマを取り上げたことがあります。そこでは授業で歌を使っているいろいろなことを教えることができるということを紹介しました。発音、語彙、文法、表現、読解、日本事情などです。授業でどのように歌を使ったらいいかの具体例や参考図書もあげられています。

一方、歌は1つのレアリア・生教材でもあります。『日本語教育通信』第62号の「日本語の教え方イロハ～レアリア・生教材」に書いてあるように、レアリア・生教材を授業に使うことによって、学習者の動機づけや実際の言語使用の体験になるばかりでなく、日本の文化や社会に関する情報も提供できます。

そこで、今回は1つの歌を取り上げ、その歌を使って実際にどのように授業ができるのか、どのような活動をしたらいいかを具体的に紹介したいと思います。

◆取り上げる教材

教材の例として取り上げるものは、「コブクロ」注という男性2人のグループが2004年に発表した『永遠にともに』という歌です。ちょっと古くなりましたが、とてもヒットした歌で、今もよく歌われています。歌詞は以下のサイト

などで見ることができます。

音楽ポータルサイト うたまっぷ.com (2010/03/27参照)
http://www.utamap.com/showkasi.php?url=B07837

◆聞く前に

歌をすぐ聞かせるのではなく、学習者が持っている知識や情報、経験などを引き出してから聞かせましょう。いろいろな方法がありますが、歌の題名からどんな内容の歌かを想像して言うてもらった方が簡単です。「みなさんは『永遠にともに』という題名からどんな内容を想像しますか?」と学習者にたずねてみてください。答えがすぐに返ってこないときは、「『永遠にともに』とは誰と誰が永遠になんですか?」と具体的に聞いてみるのもいいでしょう。友達同士、恋人同士、結婚相手、夫婦、親子、兄弟、先生と学生…自由に言わせてから、さらに具体的に歌の内容を想像させて言わせませす。「コブクロ」の写真・画像、あるいは2人が歌っているところの動画を音を消して見せるのもいいかもしれません。写真・画像はインターネットで検索すればいろいろなものが出てくると思います。例えば次のような画像です。これはカラオケでも使われています。

Music-PV Style (2010/03/27参照)

http://musicmovie.blog48.fc2.com/blog-entry-105.html

聞く前の作業では教師は答えを言ったり解説したりするのではなく、学習者に歌を聞きたいという気持ちを起こさせること、いろいろなことに思いをめぐらせることがポイントです。こうすることによって内容の理解が深まったり独自の解釈が生まれてきます。

◆歌を聞く

いよいよ歌を聞かせます。何回か聞かせながら、歌の理解を深めていきます。1回目は何を歌っている歌なのか

注：小淵健太郎（作詞・作曲・ボーカル）と黒田俊介（ボーカル）の頭の2字を取って「コブクロ」。名前のつけ方、名前をカタカナで表記している点、略した語が4拍以内である点も説明してあげるといいかもしれませんね（パソコン、エアコン、留守電、あけおめ などのように）。



が分かれば十分、予想が当たった外れた程度でいいでしょう。この歌は、結婚式の行われる中で新郎の立場から愛を歌った歌なのですが、そのことを確認します。次に、もう一度聞かせてもう少し細かな部分の聞き取りができていくかどうか質問します。例えば、「この2人はどこで結婚式をあげていますか?」(答えは「始まるの鐘が今響き渡る」とあるので教会です)のような質問です。「『特別なことはない ただ いつもより少し シャンと(「ちゃん」との意)した服を着ているだけ 君はとても綺麗だよ」とありますが、花嫁はどんな服を着ていると思いますか?」のような正解のない質問も想像力・日本語力を高めるのにいいと思います。

◆表現・文法など

歌には、日常ではあまり使わない語彙が使われることがあるので、「かけがえのない」や「木漏れ日」などに注目させるのも、歌ならではの活動です。その他にも、「踏み出す」「響き渡る」「ぶつかり合う」「降り注ぐ」などの複合動詞も、中上級の学習者の学習ポイントになります。その部分を空欄にした歌詞を見せ、歌を聞いて書き取らせることも1つの方法です。

文法などに注目させることもできますが、中上級のレベルでは「だ体」に慣れることや「そんな出逢いだからこそ」の「こそ」の用法でしょうか。

また、歌詞を配って表記のことについて触れることもできます。『永遠とともに』では題名の「永遠」を「とわ」と読ませています。こうしたことは歌ではよくあることです。この歌に出てくる「運命」は「うんめい」ですが他の歌では「さだめ」と読ませたり、「瞬間」を「とき」と読ませたりすることがあるという補足説明をしてもいいでしょう(他の例としては、「時間」を「とき」、「都会」を「まち」など)。漢語と和語では響きやイメージが異なることを紹介し、その違いを意識させたり、感じられるようにしてあげましょう。一方、「おもいで」が「思い出」、「であい」が「出逢い」と表記されていますが、「思い出」「出逢い」とどうニュアンスが違うかについて触れることもできます。さらに、「抱き」を「だき」ではなく「いだき」と読ませているのはニュアンスの違いだけではなく、リフレイン中の他の言葉に合わせるために3拍にそろえていることに注意を向けさせることも大事です。

◆聞いた後で

学生が表現を定着させるために、話したり書いたりする活動を中心に行います。また、日本文化や日本事情について説明したり考えさせたりすることもできます。いろいろな活動が考えられますので、簡条書きにしてみます。

●感想

中上級の場合は、思ったことをただ並べて言わせたり書かせたりするのではなく、どうしてそのような感想を持ったかを、なるべくくわしくわかりやすく説明できるように指導しましょう。

●気に入った言葉や表現の発表

気に入った言葉や表現は心に残りますし、自分のものになります。お互いに発表することで、自分のだけではなく友達も発表した言葉も印象に残るでしょう。感想と同じように理由とともに言わせるのが効果的です。

●使いたい言葉・表現を使つての短文作り

気に入った言葉や覚えた言葉・表現を使つてみたいと思う学習者は多いと思います。そんな人達には短文を作って発表してもらおうといいでしょう。短文作りは、文が正しいかどうかだけではなく、どんな時、どのような場面で、誰に使うかなどもチェックしなければならないのでノンネイティブの先生にとっては難しい作業だと感じられるかもしれませんが、とても大事な活動ですのでできれば取り入れてみてください。

●替え歌作り

替え歌を作ることは歌の理解はもちろんのこと、日本語力・創造力を磨くよい練習です。ただ、全部作るのはとても難しいです。この歌だったら、リフレインの部分の「共に」の後に続く言葉を自分で考えて言ってもらおうのがいいでしょう。はじめは条件をつけず自由に「共に料理を作り」、「共にペットと遊び」、「共に友達と語らい」などと作らせた後、条件をつけて3拍の言葉に限らせます。



「共に夢見」、「共に旅し」などというようにです。

● 朗読の練習

歌を歌うのが好きな学習者はすぐに覚えて歌いたがるでしょう。そういう学習者は教師が何も言わなくても表情や身振りをつけたりして感情豊かに歌ってくれるでしょう。けれども、中には発音に問題があるためにせつかくの熱唱がちよつと残念に思われたりすることがあります。声に出して歌うだけでなく、歌詞の「朗読」を通して発音に注意を向けさせるのもいい練習になります。朗読なら歌を歌うのが嫌いな学習者でも積極的に取り組みます。もし、身近にネイティブの人がいたら、テープやCDに録音してもらおうといいでしょう。1回目はゆっくり、2回目には普通のスピードで読んでもらったものを聞かせて、何回も練習させましょう。*

● 日本文化・日本事情

日本文化や日本事情についても扱うことができます。テーマとしては、結婚、結婚式、歌謡曲(J-POP)などが考えられます。例えば、「生まれた時は神社、結婚する時は教会、死んだ時は仏式」という日本人の宗教観について発展させ、それについて調べたり、ディスカッションしたりするのもいいでしょう。また、結婚パーティー(披露宴)でお祝いとしてよく歌われている歌について扱ってもおもしろいかもしれません。長渕剛の「乾杯」、安室奈美恵の「Can you celebrate」、そしてこの曲、さらには最近歌われている一青窈の「ハナミズキ」などがあります。それぞれの歌の内容の比較や、その歌が披露宴でよく歌われた時代背景について考えてもいいでしょう。また、この歌を歌ったコブクロは2005年に「蕾」という歌でレコード大賞を取りその年の大晦日の「NHK紅白歌合戦」に初出場したのですが、「レコード大賞」や「NHK紅白歌合戦」について説明するのもいいかもしれません。

以上、この歌を使ってどのような活動をしたらいいかを具体的に書いてみましたが、こうした使い方のいくつかは他の歌にも応用することができます。みなさんも是非授業で歌を使ってみてください。ただ、この歌のように様々な活動が可能になる歌を見つけるのは、そんなに簡単ではありません。筆者が授業で歌を使う

時は、歌自体は全部聞かせますが、何かに焦点を当てて、例えば、表現や文法だったり、その後のディスカッションの題材にするためなど、目的を絞って使うことが多いです。ワンポイント的な使い方でも十分効果があります。いい授業案・活動案ができたならば是非送ってください。楽しみにしています。

※ ネイティブの人に録音してもらえない場合は、以下のサイトにアクセスしてみてください。

「わいわい日本語 (YYnihongo)」(2010/03/27参照)

<http://www.yynihongo.jp/>

参考資料

『日本語教育通信』第33号の「参考文献」で紹介されているものを除く。

- Peter Tse, Seigo Nakazawa. (1995) "Sing Japanese, 1st ed., cassette tape". Kodansha International/Distributed in the U.S. by Kodansha America, 1995. : 歌手の紹介、1行ごとの英訳、語彙力・漢字力アップの項、文法の説明・練習の項などで構成。カセットテープあり。
- M.J. アイナン、金子栄美 (2002) 『Learning language through lyrics, 歌って上達日本語会話 v.1.』 凡人社、M.J. アイナン、片岡パトリシア A. (2004) 『Learning language through lyrics, 歌って上達日本語会話 v.2.』 凡人社 : 歌詞(ローマ字翻字を含む)、英訳、語彙表、文法説明などに加えアーティストのプロフィールとディスコグラフィを掲載。CDなし。
- 寺内弘子 (2001) 『歌から学ぶ日本語』 アルク : 文法を教えるための歌とその活動例。CD付。
- 濱田美和 (2003) 「日本語学習者のための日本の歌」 『2002-2003年度日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究(B))「日本語学習を支援するための音楽教材の開発」報告書』 : 日本語の童謡、唱歌、童歌等を難易度順に8つのレベルに分類。語彙表(英訳付)、楽譜、CD付。
- 吉田千寿子 (2006) 『日本語で歌おう!』 アスク : 語彙・文型・文化などを教えることを主目的に編集。オリジナルの歌があるのが特色。CD付。

このコーナーの担当者 : 白井桂・来嶋洋美 / 日本語国際センター専任講師

読者のみなさんからのアイデア、成功例、失敗例などぜひお寄せください。



日本語の教え方イロハ

第9回 日本事情や日本文化の教え方—日本語の授業の中で—

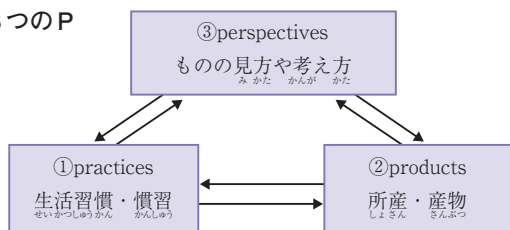
日本語のコースの中で、日本事情や日本文化を教えたいと思っても、「時間がないから」「範囲が広すぎるから」「専門ではないから」など、様々な理由で、ためらっている先生も少なくないでしょう。今回は、時間や環境が充分整わなくても、授業の前に教師がたくさんを知っているだけでも、学習者と共に発見したり考えたりしながら、楽しんで教えることができる方法を提案します。

日本事情や日本文化の扱い方

外国語教育の中で「文化を教える」目的や方法は、現在、いろいろな国で考えられています。それによると、今までの「文化に関する授業や活動」が、主に「伝統文化」を取り上げることが多かったのに対し、これからは、それだけではなく、現代の「日常生活」や「日常的な言語行動」も取り上げたほうが良い、という考え方が目立ちます。もちろん、日本語を勉強している人たちの中には、「自分の国とは違うめずらしいもの」に興味を持っている人も多いでしょう。けれども、特に若い学習者にとっては、日本の同じ時代の日常的な方が、自分の毎日の生活や自分の身近な人たちと比べることができます。

今回紹介する活動例は、そのような考え方の一つ、米国の“Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century”で提案されている文化理解の方法を取り入れたものです。この中では、文化を次の図1のように整理して考え、文化理解のための方法を提案しています。

図1 3つのP



私達の目に見えるのは、①と②の部分ですが、それは、本当は、背後にある③と密接に関係しています。ですから、授業の中でも、いろいろな素材を使って、まず、学習者に①や②をしっかりと観察させたり、実際に体験させたりして、さらに、③について、考える機会を作ることが必要です。

授業中での活動のプロセス

例えば、次の2枚の写真を見てください。これは、日本の高校のお昼ご飯の様子です。



上:「みんなの教材サイト」
下:「であい」より

まず、この写真から、「生活習慣や慣習」①と思われるものと、「文化的所産・産物」②と思われるものを探してみます。写真の中の人にはどんな様子か、どんな行動をしているか、写真に写っているものは何か、どんなものかを観察します。まず、一人ずつ、じっくり素材を見てから、自分が発見したものをペアやグループ、クラスで友達と共有します。

表1 「お弁当」の観察例

	自分たちとの共通点	自分たちとの相違点
① 習慣・慣習	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと数人で集まって食事をしている。 女の子と男の子は別々のグループで食べている。 ペットボトルなどの飲み物を飲んでいる。 教室にいろいろなものが貼られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が教室の中で食事をしている。 学生が制服を着ている。 体育着で食べている学生もいる。 お弁当がきれいに作られている。
② 所産・産物	<ul style="list-style-type: none"> 机 椅子 黒板 ペットボトル パン お弁当を包む布 	<ul style="list-style-type: none"> ごはんははしはし箱 ペットボトルのカバー 黒板の落書き

観察では、自分達と「異なる点」だけでなく、「共通点」も出すほうが良いでしょう。そうすると、その写真に写っている日本人達に親近感を持つことができます。そして、違う国の人にも共通点があることに気づいたり、逆に、隣の友だちと違うところがあることを知ったりすることができます。つまり、このような観察が、いつも、

自分の国と日本を比べるだけでなく、「多様なものを見る目、知る目」を養うことにつなげられ、より広い視野で文化を理解しようという気持ちを持つようになります。

次に、このように観察したものから、どのような背景や価値観などが考えられるか、自由に言ってみましょう。同じ行動を見ても、「好きだ」とか「私もやってみたい」と思う人もいるし、「どうしてそんなことをするんだろう」「変だ」と思う人もいるでしょう。できれば、まわりの人たちとお互いの意見を伝えたり、ディスカッションをしたりしてみましよう。もちろん、母語を使ってもかまいません。

活動に多くの時間を使うことができる場合は、日本語の授業の要素も取り入れて、いろいろなタスクとして行うこともできます。(具体的な活動例に関心がある方は、『国際交流基金 教授法教材シリーズ11 日本事情・日本文化を教える』をご覧ください。)

活動に使う素材

ここまで述べてきたような活動は、特別な時間を作らなくても、することができます。日本語の教科書に出ている「文化に関するコラムや紹介文」のトピックに合わせてもいいし、教科書の「本文」の中のことばや場面、また、授業の練習で使ったことばを扱ってもいいです。活動に使える時間によって、やり方も調整して行うことができます。

表2 日本語の授業で使う素材と観察できること (例)

文型やトピック	利用できる素材	観察できること (例)
時間	営業(診療、開館)時間が書かれている 看板の写真	いろいろな機関の営業時間 看板の色、書き方
～があります	部屋の写真やビデオ コンビニの写真やビデオ	家の間取り 部屋の大きさや様子 品物の種類や並べ方 店員さんの態度や行動 お客さんの行動
買い物	スーパーのチラシ お菓子の袋やパッケージ	値段(物価)、売り方 品物の人気 色や文字の使い方 品物に対する価値観

活動で使える素材は、写真だけでなく、日本語の授業に用いる、映像(動画)、レリア、データなど、いろいろあります。海外でも、教材やインターネットなど、入手できるものを使って行うことができます。

素材は、できるだけ複数のもの、多様なものを用意することが望ましいでしょう。例えば、初級の授業で「朝ごはん」という言葉が出てきたとき、左のような写真だけ見せると、日本人がみんな、このような部屋でこのような朝ごはんをこのように食べていると思ってしまうがちです。右のような違う環境や違う形の朝ごはんの写真を見せることで、日本にも多様な「朝ごはん」のスタイルがあることに気づき、自分たちの国にも同様にいろいろなバリエーションがあることに気づけるでしょう。



「みんなの教材サイト」より

活動の意義

このような活動の目的は、学習者の「目」と「頭」を育てることで、日本人の考え方や価値観について最終的に結論を出すことではありません。学習者は、このような経験を積み重ねることによって、自分とは違うもの、新しいもの、新しいものに接したとき、ただ「なんとなくいやだ」とか「あまり好きになれない」と考えずに、自分との共通点を見出したり、違う理由を考えたりすることができるようになります。特に、学習者一人ではなく、グループやクラスの人たちと意見を交換すると、文化の多様性や個性に対する「気づき」を促す上でとても効果的です。この力は、日本語という外国語を勉強することによって身につけることができる、一生の力になるでしょう。

参考文献

- ・ National Standards foreign Language Education Project(1999) "Standards for Japanese Language Learning". Standard for Foreign Language Learning in the 21st Century.
- ・ 国際交流基金 (2010) 『国際交流基金日本語教授法シリーズ11 日本事情・日本文化を教える』 ひつじ書房
- ・ 「みんなの教材サイト」 <http://minnanokyozaai.jp/>
- ・ 国際文化フォーラム「であい」 <http://www.tjf.or.jp/deai/index.html>

このコーナーの担当者：築島史恵 (日本語国際センター専任講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。



文法を楽しく!!

ぶん ぼう たの

「のだ／んだ」(1)

今回と次回は「んです／んだ」、「のです／のだ」について考えます。次の(1)の会話を見てください。

- (1) A: どうして遅れたんですか。
B: ごめんなさい。バスが来なかったんです。



(1) には「んです」が2つ出てきています。「んです」の代わりに「のです」、「んだ」の代わりに「のだ」を使うことができますが、「のです／のだ」のほうが

「んです／んだ」よりフォーマルで、硬い感じがします。「のだ／んだ」の基本的な意味は「事情説明」です。「事情」というのは、「理由」や「わけ」という意味で、「事情説明」というのは、ある事柄に対して「理由」や「わけ」を説明するという事です。

「事情説明」は話し手が事情を説明する場合と、事情説明を求める(事情を聞く)場合があります。

(1) では、Aが「んです」を使ってBに説明を求めているのに対し、Bは遅れた理由を説明するために、「バスが来なかった」の後ろに「んです」を付けています。

「理由」や「わけ」を説明することは、場合によっては、弁解がましい(=責任の言い訳をする)、主張が強すぎる、押し付けがましく(=一方的に自分の意見を押し付ける)聞こえることがあります。

もう一度(1)の会話を見てください。Aが遅れた事情を聞いているのに対して、Bは「ごめんなさい」と謝って、次に遅れた事情を説明しています。(1)では「ごめんなさい」と謝っているの、主張が強すぎるといった感じはしませんが、次のように「んです」が重なると、弁解がましく、また、押し付けがましくなります。

- (2) A: どうして遅れたんですか。
B: バスが来なかったんです。あのバスはいつも遅れるんです。だから、仕方がないんです。

「のだ／んだ」を使った質問文も、状況によって、また、イントネーションを強くしたりすると、意味合いが変化していきます。次の(3)1は挨拶代わりに



ように、軽く聞いているだけです、(3)2,3となるにしたがって、説明を求める度合いが強くなります。

- (3) 1. A: こんにちは。いいお天気ですね。何をしていますか。
B: いい天気だから、チューリップの球根を植えようと思って。
A: そうですか。いいですね。
2. A: Bさん、何をしていますか。
B: いい天気だから、チューリップの球根を植えようと思って。
A: ああ、そうでしたか。何をしたらいいのかわかりませんが。
3. A: Bさん、何をしていますか。
B: いい天気だから、チューリップの球根を植えようと思って。
A: 今球根など植えなくてもいいですよ。ちょっと早すぎますよ。

(3)2では(3)1より答えを求める気持ちが強く、(3)3では、「問いただし」(=厳しく追及する)や「とがめ」(=注意する、非難する)の気持ちが強くなっています。

「のだ／んだ」を「いつ使うのか」は日本語を勉強する人には難しい問題ですが、同時に「いつ使わないか」も難しい問題です。というのは、日本語学習者が作る文を見ていると、「のだ／んだ」の脱落(使えない、落ちてしまう)が多いと同時に、それ以上に、「のだ／んだ」の多用(使いすぎ)が多いからです。

では、少し練習をしてみましょう。次の「のだ／んだ」を使ったaと、使っていないbと、どちらがより自然か考えてください。

【問題1】

1. <自己紹介>

ボン: ポンです。タイのバンコクから(a.来ました

b.来たんです)。今、日本語学校で日本語を(a.勉強

しています b.勉強しているんです)。

2. 〈日本語コースが終わって、修了式のスピーチで〉

ホセ：最後に、私は先生方に感謝 (a.したいです

b.したいのです)。先生方はとても親切で、(a.やさしかったです b.やさしかったのです)。

3. 〈あなたはビルの8階にいます。窓から下を見ると、

傘を差して歩いている人が見えます。それを見て〉

あなた：あ、雨が (a.降っている b.降っているんだ)。

4. 〈九州のお土産を持って先輩を訪ねました。〉

私：これ九州のお土産です。

先輩：そうですか。九州に (a.行きました b.行ったのです) ね。

5. 〈キムさんが出かけるのを見て、リーさんは〉

リー：キムさん、こんな時間にどこへ (a.行きます

b.行くんです) か。もう遅いですよ。

答えは1-a、2-a、3-b、4-b、5-bです。

1は自己紹介の場面ですが、相手にはじめて会うわけですから、「事情説明」はありません。紹介の場面では「のだ／んだ」が使われないのが普通です。2も「事情説明」というより、単に感謝を述べるわけですから、「のだ／んだ」は不要です。「のだ／んだ」を付けると、感情が入りすぎる言い方になります。3は傘を差している人を見ての発話ですから、「事情説明」になります。もし、窓の外を見て雨に気がついた場合は、事情はないわけですから、単に「あ、雨が降っている。」となります。4は、九州のお土産を目の前にしての会話ですから、九州へ行った根拠 (事情) があるということで、「のだ／んだ」が必要です。5は「こんな時間に」という表現があることからわかるように、「問いただし・とがめ」になるので、「のだ／んだ」が必要です。

「のだ／んだ」は「事情説明」を表すということから、「納得」の意味用法も持ちます。

(4) 道が込んでいる。きっと事故があったのだ。

(4) では道が込んでいる事情を推量して、理解し、納得していると考えられます。

次の (5) も「納得」を表しています。

(5) 変な男がうろろうしていた。だから、うちの犬が吠えたのだ。

(5) のような「納得」の文で「推量」の意味合いが強くなると、「のだ／んだ」ではなく「のだらう／んだらう」「のかもしれない」が用いられます。「のかもしれない」の前には通常、「ん」ではなく「の」が来ます。

(6) 変な男がうろろうしていた。だから、うちの犬が吠えたのだらう／吠えたのかもしれない。

(7) 山田さんがまだ来ない。きのう用事があると言っていたが、やっぱり来られないんだらう／来られないのかもしれない。

「だらう」「かもしれない」の前に「の／ん」が付くかどうかについて、少し練習をしてみましょう。次のaとbのどちらか、より自然なほうを選んでください。

【問題2】

- この本を読んでください。いろいろなことが (a.わかるでしょう b.わかるんでしょう)。
- もし敬語がわかれば、目上の人と話すのも簡単に (a.なるかもしれません b.なるのかもしれませんが)。
- 彼は失敗を経験したから、人の気持ちがわかるように (a.なったでしょう b.なったのでしょうか)。

答えは1-a、2-a、3-bになります。

1は「本を読むと、いろいろなことがわかる」、2は「敬語がわかると、目上の人と話すのが簡単になる」という、単なる因果関係 (原因と結果) を述べているので「の／ん」は不要です。一方、3は、「失敗を経験した」という事情があったから「人の気持ちがわかるようになった」、ということを経験し、理解し、納得しているので「の／ん」が必要になります。

「のだ／んだ」は、申し出たり、許可を求めるときに「～ですが」、「～ののですが」の形で前置きとして用いられます。

(8) ちょっとお話があるんですが、今よろしいですか。

(9) テレビの音が大きいのですが、音を小さくしていただけませんか。

(10) 午後銀行へ行きたいんですが、かまいませんか。

(8) ~ (10) は「のだ／んだ」を用いて丁寧に事情を説明し、後ろの文で許可を求めるといった形をとっていますが、これも「のだ／んだ」が持つ「事情説明」ということから説明できます。

このコーナーの担当者：市川保子 (日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。



文法を楽しく!!

ぶん ぼう たの

「のだ／んだ」(2)

ー～んだから、～のならー

今回は「のだ／んだ」の使い方を勉強しました。「のだ／んだ」の基本的な意味は「事情説明」で、「のだ／んだ」はある事柄に対して「理由」や「わけ」を説明するということでした。今回は、「のだ／んだ」を用いた「～の／んだから」と「～の／んなら」について考えます。

「～んだから」

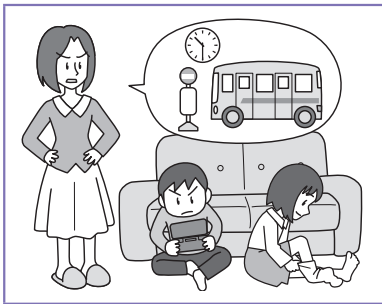
「～の／んだから」について、話しことばとしては「～んだから」のほうがよく使われるので、ここでは「～んだから」を用いて説明します。

母親が子供たちに言いました。「10時半のバスに乗るから、早く支度しなさい。」

でも、子供たちはぐずぐずしてなかなか準備が進みません。それを見た母親がもう一度言います。「10時半のバスに乗るんだから、早く支度しなさい。」

母親の2回のことばはどこが違うのでしょうか。

- (1) a. 10時半のバスに乗るから、早く支度しなさい。
b. 10時半のバスに乗るんだから、早く支度しなさい。



(1)aでは「乗るから」が使われていますが、(1)bでは「乗るんだから」になっています。

(1)aは子供に対する母親からの「はじめて」の指示

ですが、(1)bは、「支度するように言われたのに、なかなか支度しない」という「事情」を踏まえて(=事情のうえに立って)の言及になります。

「乗るんだから」を分解すると、「乗る+んだ+から」となります。「んだ」だけでも事情(理由・わけ)を表しているのに、理由を表す「から」が重なって、事情説明、理由説明の意味合いが非常に強くなっています。このことから、「～んだから」が単なる理由説明ではなく、非常に強調された言い方であることがわかります。

「～んだから」の使い方のポイントをまとめると、次のようになります。

1) 話し手も聞き手も知っている事柄に用いられ、「聞き手(あなた)も知ってはいるが、その認識が十分でない」ことを知らせようとする話し手の強い気持ちが入る。

2) 後件には、「そういうことだから、～たい、～はずだ、～ほうがいい、～てください」などの、話し手の判断や意志、願望、働きかけなどの表現が来ることが多い。

(1)bでは、10時半のバスに乗ることを言ったのに、子供たちは準備をしない、つまり、バスに乗ることに対しての子供たちの認識が十分でない、そのことに対して、「～んだから」を使って、もう一度強く母親が働きかけているということになります。

ある時、一人の学習者(Pさん)が教師である私に次のように言いました。それを聞いて私は違和感を持ち、少し腹立たしく感じました。

Pさん：用事があるんですから、早めに帰りたいんですが。

「用事がある」ことを私は知りませんでした。それなのに、「～んだから」を使って、「あなたも知っているが、その認識が十分でない」と言われても、私は納得ができません。むしろ、彼の言っていることが自分勝手に、押し付けがましく聞こえます。

では、練習問題をやってみましょう。次の各問の、aかbが適切なほうを選んでください。

【問題】

1. A: Bさん、ちょっと。
B: なあに。
A: 今日授業を(a. 休むから b. 休むんだから)、あとでノート見せてね。
B: うん、わかった。
2. A: 同窓会の仕事頼まれちゃって。
B: 大変なの?
A: うん。
B: でも、(a. 引き受けたから b. 引き受けたんだから)、しっかりやりなさいね。

3. A: この仕事、頼めるかな?

B: ごめん、今(a. 忙しいから b. 忙しいんだから)、
ちょっと無理。

A: 忙しいんだね。わかった。

4. 友達をよく授業を休む。私も時々休みたいと思う
こともあるが、せっかく大学に(a. 入ったから
b. 入ったんだから)、ちゃんと授業に出るべきだと
考えている。

迷わずにできましたか。迷ったところもありますか。

答えは、1-a、2-b、3-a、4-bです。

1は、Aが授業を休むことをBは知らないので、突然「休むんだから」と言われても、Bには理解できないでしょう。仮に理解できたとしても、押し付けがましく感じるはず。2で、BはAが同窓会の仕事を頼まれたことを知り、その事実(事情)を踏まえて、頑張るように励ましているのですから、b「引き受けたんだから」が適切になります。

3は、忙しいということはBだけが知っている事情なので、a「忙しいから」になります。ここで「忙しいんだから」を用いると、「私の事情を知っているだろう。知らないのか」というような自分勝手な言い方になります。次にAは「忙しいんだね」と言っていますが、これは、Bの説明を受けて、「ああ、そういう事情なのか」と納得して、「のだ/んだ」を用いています。

4は日記の一節で、特に決まった聞き手はいません。しかし、「大学に入った」ということは「幸せなこと、幸運なこと」で、そのようなことは誰でもが知っていること(常識)と言えます。「大学に入れたのは幸せなことだから、さぼったりしないで授業に出るべきだ」となって、b「入ったんだから」が適切になります。

このように聞き手が特定の人でなくても、「一般的な常識に基づいて」「皆が知っているように」という判断で「～んだから」が用いられることもあります。4では「幸運にも大学に入ったのに、授業をさぼるのは、常識として残念なことだ」ととらえ、他の学生の認識の不十分さを知らせていると考えられます。

「～のなら」

「～の/んなら」については、「～のなら」を使って説明します。話しことばでは「～んなら」も用いられますが、ややぞんざいに聞こえることがあります。

まず、「なら」の主な用法を復習しましょう。

1. 主題トピックを表す

- (1) サッカーなら、彼が一番うまい。
(2) ビールなら、高原ビール。

2. 仮定を表す

- (3) 田中さんが来るなら、会は盛り上がるだろう。
(4) 留学するなら、タイミングを見て、早く決めたほうがよい。

3. 確定していることや相手のことばを受けて

- (5) A: これ、もう要らない。
B: 要らないのなら、私にちょうだい。
(6) (子供が勉強しないのを見て)
母親: 勉強しないのなら、テレビゲームもだめよ。

「なら」を使うか「のなら」を使うかという点では、1は「なら」を、3は「のなら」を使ったほうがよいと言うことができます。2については、通常は「なら」を使いますが、「のなら」も使うことができます。

- (3)' a. 田中さんが来るなら、会は盛り上がるだろう。
b. 田中さんが来るのなら、会は盛り上がるだろう。

(3)'aは単に「田中さんが来るかどうかはわからないが、彼が来れば」という単なる仮定を表しますが、(3)'bは田中さんの来ることが決まっている、または、田中さんが来そうな様子である、といった事情や前提があるときに用いられ、「田中さんが来る可能性がある、その場合は…」の意味になります。

- (4)' a. 留学するなら、タイミングを見て、早く決めたほうがよい。
b. 留学するのなら、タイミングを見て、早く決めたほうがよい。

(4)'aは単に「留学するかどうかはわからないが、もしするとしたら」という仮定の意味ですが、(4)'bは留学することがほぼ決まっている、または、留学する可能性がある、といった事情や前提があるときに用いられ、「留学する可能性がある、その場合は…」の意味になります。

このように「2. 仮定を表す」の場合は、単なる仮定なのか、可能性のある仮定なのか判断がつかないこともあるので、「の(だ)」があってもなくても、それほど意味が変わらない場合が多いと言えるでしょう。

このコーナーの担当者: 市川保子 (日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。



本ばこ

ほん

一新刊教材・図書紹介

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

場面はマンガで理解。日常生活でよく使う表現から敬語を学ぼう。
『マンガでわかる実用敬語初級編』

著者：釜淵優子 出版社：アルク
ちよしや かまぶちゆうこ しゅっぱんしゃ

URL：http://www.alc.co.jp 発行年月：2009年10月 ISBN：978-4-7574-1633-8
ほつこうねんげつ ねん がつ

判型・頁数：B5判、168頁 英中韓対訳付き CD1枚 定価：2,100円
はんけい ペーじすう ほん えいしゅうかんたいやくつ CDまい ていか えん



敬語は、学習者にとって使うのはもちろん使い方を理解するのも難しい項目です。この教材は、日常生活でよく使われている表現から「敬語」というものに慣れ、学ぶことを目指しています。敬語を使い分ける上で重要な、相手との関係や状況などは4コママンガで示してあるので、とてもわかりやすくなっています。

敬語と聞くと、「れる／られる」「いらっしゃる」「お～する」など尊敬語や謙譲語をイメージしがちですが、実際のコミュニケーションでは、そのほかにも様々な言葉や婉曲的な表現を使って丁寧さを出しています。例えば、電器店で前日に買った商品の交換を依頼するときに、「交換してもらえると、ありがたいんですが…」と言えば、「交換してください。」と言うより丁寧ですし、場面にもふさわしい表現になります。このような尊敬語や謙譲語を使わない表現も、相手や場面に配慮した表現として敬語に含めて考え、取り上げている点も、この教材の特徴でしょう。

▽身近な場面で「話せる」「聞いてわかる」

全体は3部に分かれています。第1部「話してみよう！」では、目上の人とのやりとりに限らず、日常的な場面、例えば店や銀行、駅などで、依頼したり、尋ねたり、許可を求めたり、苦情を言ったりするときに使う表現を学びます。身近な場面を通して、敬語を自分で使えるようになることを目標としています。

第2部「聞いてみよう！」では、日常的な場面で、敬語で話された言葉を聞いて意味がわかるようになることを目標としています。例えば、許可を求められて断るときに、「申し

訳ありませんが、～できないことになっております。」「それはちょっと…。」「それはご遠慮いただいております。」「…などの様々な表現があることを学びます。

第3部「敬語の種類」では、尊敬語、謙譲語などの分類や説明、形の作り方などを簡単にまとめて紹介しています。

▽場面の理解と使われる表現に注目

初級では、依頼の表現として「～ください」を最初に習うかもしれませんが、実際の場面では、相手や依頼する内容によって表現は様々です。「こういう場面では、どう言ってお願ひするのが丁寧でしょうか?」と、場面と表現を結びつけて覚えるようにするのがいいでしょう。マンガの会話を讀んだり付属のCDを聞いたりして新しい表現を覚える方法もありますが、マンガのキーフレーズ部分を消して、どのような言葉が入るか考えさせてから、CDを聞かせてもいいと思います。



p.40-41



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

結びつきやすいことばを覚えて表現を豊かにしましょう

『コロケーションで増やす表現 ほんきの日本語 vol.1』

著者：小野正樹、小林典子、長谷川守寿 出版社：くろしお出版

URL：http://www.9640.jp 発行年月：2009年10月 ISBN：978-4-87424-457-9

判型・頁数：A5判、120頁 別冊解答 CD-ROM1枚 定価：1,680円



「頭」という単語はどんなことばと結びつきやすいですか。例えば、「頭に来る」という表現はありますが、「頭に行く」という表現はありません。「コロケーション」とは2つ以上の単語の結びつきやすい表現のことです。「頭」と結びつきやすいことばは「来る」のほかにどんなものがありますか。それによって、どんな意味の変化がありますか。これらの問題は中上級学習者にとっても、難しいと思います。

この教材では、初級で習った基本的な単語の意味を復習しながら、その単語と結びつきやすいことばに何があるか、意味がどのように変わるかを勉強します。語義を理解し、表現をふやし、自然な日本語を身につけられるようになります。

▽実践を通して覚えましょう

この教材は、日常的によく使われている表現が多く取り上げられていて、読解や会話や文法の授業で使えます。また、本の後ろに練習問題の答えがついているので、自習にも使えます。

この本にはCD-ROMがついています。読み方がわからないときに音声を聞くこともできます。また、インターネットにつながっていれば、googleサイトに行き、実例検索結果をたくさん見て、表現の意味と使い方が理解できるようになっています。

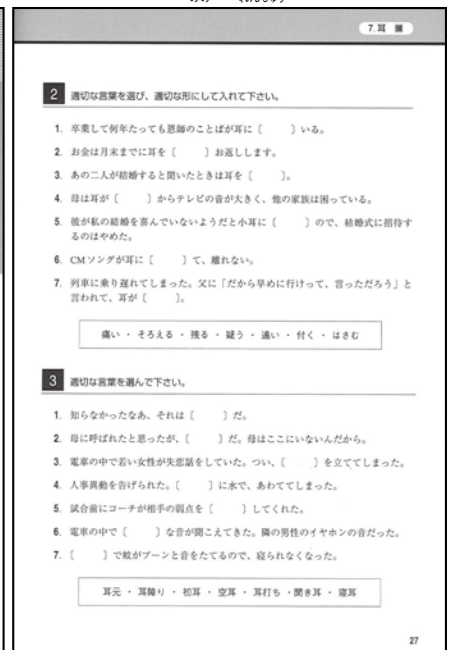
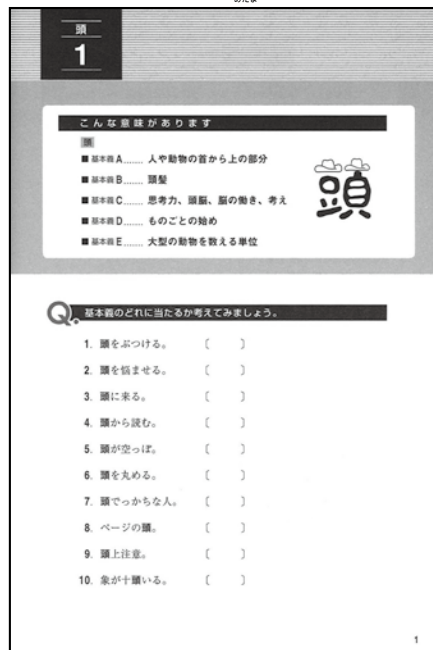
1 頭

7 耳 (練習)

▽練習を通して覚えましょう

1課の構成は、以下のようになっています。

「こんな意味があります」…単語の基本的な意味(基本義)を確認します。「Q.基本義のどれに当たるか考えてみましょう」…結びつきやすいことばを見ながら、意味を考えます。「練習」…基本義の確認問題をやってから、結びつきやすいことばの穴埋め問題をやります。「調べてみましょう」…類義表現や似たような文法構造を持つ、違う組み合わせを調べて、さらに表現を増やします。





本ばこ

ほん

—新刊教材・図書紹介—

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

通訳を養成する日本語教師の助けに 『よくわかる逐次通訳』

著者：ベルジュロ伊藤宏美、鶴田知佳子、内藤稔 出版社：東京外国語大学出版会

URL：http://www.tufs.ac.jp/blog/tufspub/ 発行年月：2009年10月

ISBN：978-4-904575-05-5 判型・頁数：B5判、166頁 DVD1枚 定価：2,940円



「逐次通訳」というのは、発言者がある程度の長さ話した後で、その内容を通訳者がまとめて別の言語に通訳する方法のことです。発言者と同時に通訳する「同時通訳」と同様、国際会議でのコミュニケーションのために必要な通訳の技能です。

この本は通訳・通訳教育の専門家が、プロの通訳を目指す学生向けに書いたものです。日本語教育とは違う立場で書かれた本ですが、日本語教育の現場でも、観光やビジネスの場面で通訳ができるようになることを希望する学生のために、通訳のトレーニングを担当する先生が数多くいるでしょう。そんな先生方も本書を通して、通訳に必要な基本的知識・能力に関する整理ができ、通訳トレーニングコースのカリキュラムや、授業方法を学ぶことができます。付属のDVDで、映像により通訳演習授業の具体的な内容、方法、実践例を知ることができます。

▽理論編：通訳の理論と通訳訓練法

「理論編」では通訳に必要な知識・能力を整理しています。具体的な通訳訓練法として、ESIT（パリ第三大学通訳翻訳高等学院：日本語を正規科目に採用している欧州トップレベルの通訳翻訳専門の大学院課程）の逐次通訳演習の例が紹介されています。

「理論編」は、通訳トレーニングの授業を組み立てるための具体的なヒントを得たいと考えた時に、必要に応じて読むこともできます。中級程度の学習者を対象に通訳トレーニングをする先生には、次のような内容が指導の参考になるでしょう。

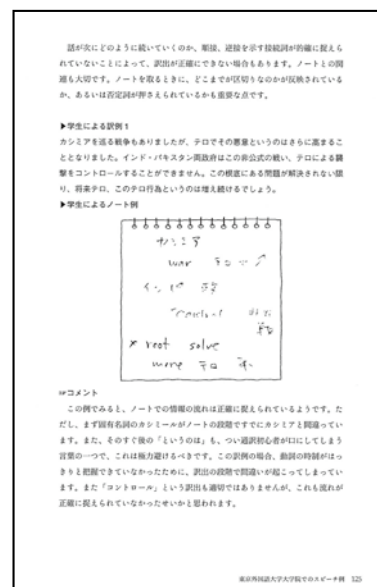
- 通訳に必要な聞く力とは何か
- 聞き方の訓練方法

- 通訳演習授業で学生による生のスピーチを利用する理由・効果
- 知識の増やし方の方法
- ノートのとり方の訓練例やポイント
- 日本語と英語の話し方・考え方の違いへの対応方法
- ジョークをどのように訳すか

▽ノートのとり方と通訳の実演がわかる

「実践編」では通訳演習授業の具体的な内容として、学生によるスピーチ（英語・日本語）と、それに対する学生の手例・ノート例、それに対する講師のコメントを見ることができます。コメントは「情報の整理」「論理展開の流れ」「数字・固有名詞」「時制」がポイントになっています。DVDでは、これらのスピーチの音声と、

講師によるノートとりの実演、通訳の実演を見ることができます。更に講師の解説もあり、ノートのとり方のコツや筆記用具に関する具体的な注意点についても知ることができます。





本ばこ

ほん

一新刊教材・図書紹介

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

イラストで状況や場面を理解しながら学べる初級の総合教科書

『日本語初級 1.2 大地』

著者：山崎佳子、石井怜子、佐々木薫、高橋美和子、町田恵子
出版社：スリーエーネットワーク

URL：http://www.3anet.co.jp

発行年月：2008年10月(初級1メインテキスト)、2009年10月(初級2メインテキスト)

ISBN：978-4-88319-476-6(初級1メインテキスト)、978-4-88319-507-7(初級2メインテキスト)

判型・頁数：B5判、196頁(初級1メインテキスト)、188頁(初級2メインテキスト) 各CD1枚付き 定価：各2,940円



初級1も初級2も、各100-120時間の学習時間を目安に作られた、初級の総合教科書です。学習語彙・文型の数は、海外でもよく使われている『みんなの日本語初級』(スリーエーネットワーク)とほぼ同じですが、初級1は22課、初級2は20課で構成され、コンパクトです。各課は約6ページで「モデル会話」「文型提示」「練習問題」「友達の会話」「総合練習」からなっています。

教科書にはイラストが多く使われていて、学習者は会話や文型がどのような場面や状況で使われているのか想像できるようになっています。教科書に登場するのは、日本語学校に通いながら日本で生活する学生達です。

▽文型練習でもコミュニケーションを意識

各課は文型を中心にした学習項目からなっていますが、文型がどのような場面で、どのように使われるのかを学習者が理解しながら練習できるようになっていることがこの教科書の特徴です。



初級2 p.24

例えば、動詞テ形が初めて出てくる15課では、料理教室の場面・日本人の家を訪問する場面・先生にアドバイスを求める場面・パーティーの後片付けの場面などで、「てください」の練習をするようになっています。「ています」の練習では、パーティーの様子を描写したり、電話で友達に

パーティーの様子を伝えたりするなど、現実になりそうなコミュニケーション場面の練習になっています。

会話形式の練習では、答え方によって学習者が会話の展開を選んで話せるように図示されています(図版参照)。つまり初級の文型を利用した会話練習でも、現実の会話と同じように、答えにより会話の展開が変わることを体験できるようになっています。

各課には、友達同士の会話、つまり普通体で話す練習があります。学習者同士のことを尋ねあうインタビューや、自分や友人のことについてのレポート、インフォメーションギャップを利用した活動などがあり、学習者にとって現実味のある内容を聞いたり話したりする練習になっています。

教科書にはワークシートや、情報カードなどが多く載っていますので、学習者に合わせてアレンジすれば、練習を更に活発にする工夫が簡単にできます。例えば教科書に、ペアでのインタビューシートが載っていれば、学習者が考えた質問も書き込める欄や、複数の相手にもインタビューして記入できる欄を加えたワークシートを作れます。また「総合練習」にあたる『使いましょう』の練習を学習者に合わせた内容に変えたり、書き加えたりすることもできますでしょう。

▽付属教材について

付属教材には『基礎問題集』と『文型説明と翻訳』があります。『基礎問題集』は文型の定着をはかるためのドリルで、『文型説明と翻訳』(英語版)(韓国語版)(中国語版)には各課の文型説明と新出語彙リスト(翻訳付)が載っています。2010年秋には、教師用のガイドブック(CD-ROM付)が出版される予定です。



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

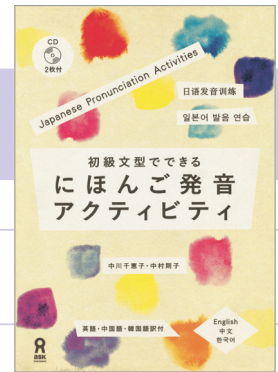
イントネーションの線を見ながら発音を練習するテキスト

『初級文型でできる にほんご発音アクティビティ』

著者：中川千恵子、中村則子 出版社：アスク出版

URL：http://www.ask-digital.co.jp 発行年月：2010年3月

ISBN：978-4-87217-741-1 判型・頁数：B5判、142頁 CD1枚



日本語の発音は長音と短音で意味を区別することや、アクセントは高低で区別することなど、外国人学習者にとっては難しいところがたくさんあります。このテキストは、初級からでも、CDを聞いて、声に出して、習った文型を、なめらかな発音で使えるようになることを目指しています。

▽ 文型復習と発音練習が同時にできる

このテキストは4つのセクションからなっています。セクション1は「日本語のリズムに慣れよう」です。たとえば、長音の練習では、「おばあさん」を「タ・タン・タン」とし、「おばさん」を「タン・タン」として練習します。また、促音の練習では、「いっしょに」を「タン・タン」とし、「ん」の練習では、「にほんご」を「タ・タン・タ」として練習します。このように目と耳で確認しながら練習していけば、日本語のリズムに慣れることができます。セクション2は「なめらかに言えるようになろう」です。

まとまった文を話せるように練習します。日本語の文は、最初に上がって、だんだん下がっていき、最後に少し弱くなるという基本的なパターンがあります。これは意識的に練習しないと、なかなか気づかないものです。この本では、たとえば、「きょうは、私の国の話をします。」を、意味のまとまりのところで、2つのフレーズに分け、それぞれ「へ」のような形の線（イントネーション・カーブ）を上を書いて、目で見ても分かるようにしています（図参照）。セクション3は「気持ちが伝わる話し方をしよう」です。ここでは気持ちをこめて話す練習と大事なところを強調して話す練習をします。また、友だち同士のくだけた会話やお詫びの言い方などもあります。

セクション4は「場面に合った話し方をしよう」です。ここでは、セッション1から3の総合的な練習や、電話

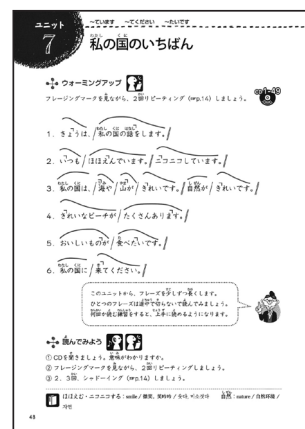
での話し方や意見の言い方の練習をします。たとえば、結婚式での挨拶や、アルバイト先の店長に休みの許可をもらうための電話などがあり、強調するところの言い方も含めて練習できるようになっています。

テキストの最後には付録として、数字や金額のアクセント、動詞の「てフォーム」「たフォーム」「ないフォーム」の言い方などがあります。

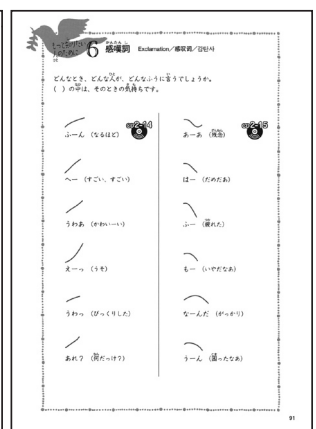
このテキストは英語・中国語・韓国語の訳がついています。

▽ このテキストの使い方

- ① 初級の教科書の副教材として、文型を覚えるために使うことができます。
- ② 初級からの学習者の復習として使うことができます。
- ③ 話すための活動素材として使うことができます。
- ④ 発音クラスで使うことができます。



p.48



p.91



本ばこ

ほん

一新刊教材・図書紹介一

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

学習者の誤用から文法とその指導を考える辞典

『日本語誤用辞典』

著者：浅山友貴、荒巻朋子、板井美佐、太田陽子、坂本まり子、杉本ここ、副島昭夫、
田代ひとみ、野田景子、本郷智子 編著：市川保子 出版社：スリーエーネットワーク

URL : <http://www.3anet.co.jp> 発行年月：2010年4月
ISBN : 978-4-88319-522-0 判型・頁数：A5判、800頁



▽生きた誤用データを整理された形で示す

日本語学習者は、日本語を習得する過程でさまざまな誤った文や不自然な文を作ります。本書は、学習者の実際の誤用例を文法の観点から整理し、解説を加えた誤用辞典です。取り上げられている誤用例文数は、2720文にのぼります。見出しとして挙げられている文法項目は、「だろう」「のだ」などモダリティに関係のあるもの、「である」「ている」などテンス・アスペクトに関係のあるもの、「たら」「ば」など条件節に関係するものなど、日本語学習上問題になりやすいものばかり170項目にわたります。また、一般的な文法解説書にはあまり出てこない接続詞や副詞の項目が多いことも特徴です。

それぞれの見出し項目には、誤用例文とその訂正文が、誤用の種類によって分類されて並べられています(図参照)。誤用の種類というのは、使用しなければならないのに使用していない「脱落」、使用してはいけないところに使用

している「付加」、形の間違いである「誤形成」、他の項目と混同している「混同」などです。

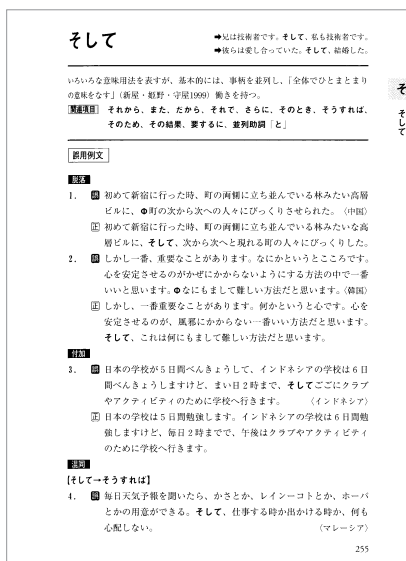
▽学習者の誤用から何が学べるか

たとえば「そして」では、次の例を含めた全部で16種類の誤用例文が挙げられています。

- 【誤】 毎日天気予報を聞いたたら、かさとか、レインコートとか、ホーバとかの用意ができる。そして、仕事する時か出かける時か、何も心配しない。
- 【正】 毎日天気予報を聞いたたら、傘とか、レインコートとか、オーバーとかの用意ができる。そうすれば、仕事する時や出かける時、何も心配なくていい。

学習者はなぜこのような誤用をするのでしょうか。本書の「誤用の解説」ではこれらの誤用を分析・検討し、学習者には前文と後文との意味関係をあまり考えずに「そして」を使ってしまう傾向があること、上の例では、条件・結果の関係があるので別の接続詞を使ったほうが適切だということなどが書かれています。また、「指導のポイント」として、2つの文がどのような論理関係を持つか、接続詞同士を比較しながら時間をかけて教える必要があるということなどがまとめられています。

このように、学習者の誤用を見ていくことで、その文法項目の意味や使い方、指導上の問題点などいろいろなことが見えてきます。本書は、教え方を工夫する際の参考にもなりますし、実際に自分の学習者がおかした誤用を解釈する手がかりにもなります。また、これから文法や言語習得を研究しようとする人にとっては、ヒントを見つける資料になるだろうと思われます。



p.255

このコーナーの担当者：中村雅子 / 日本語国際センター専任講師